

# 産地をつくる仕組みをつくる

～技術産地プロが拓く 沖縄農業の未来～



令和7年度

JA経営マスターコース27期

JAおきなわ 平川頼子

令和8年3月修了論文発表会用資料

# 目次

現状

課題

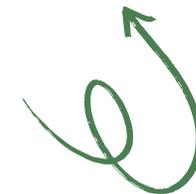
提案1：人づくり

「技術産地プロ」の育成

提案2：体制づくり

「持続可能な営農指導体制」の構築

提案のまとめ



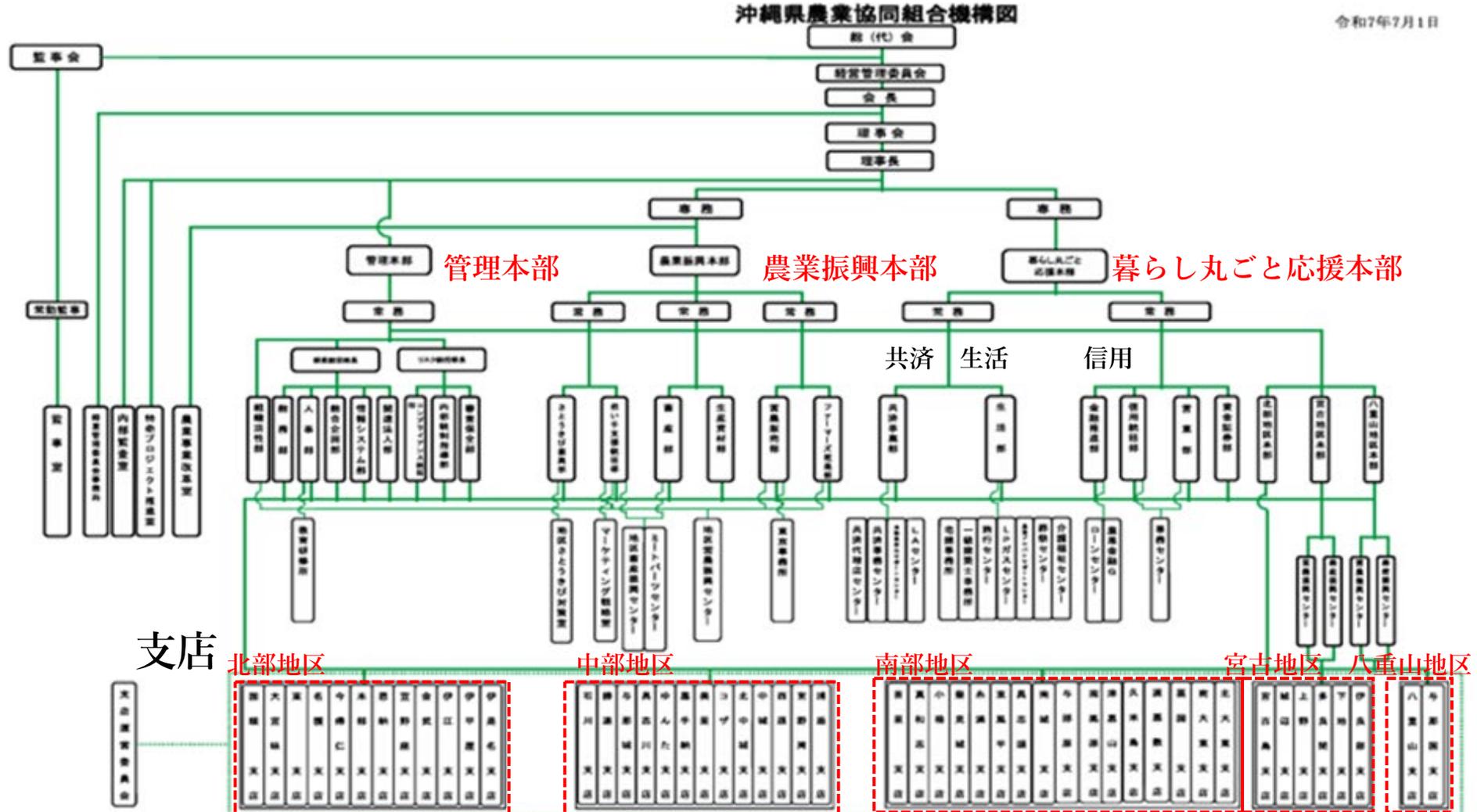
# 現状 JAおきなわ 概況

---

- ・平成14年4月1日 県単一JA
- ・組合員数152,188人↑（正組合員43,181人↓准組合員109,007人↑）
- ・職員数2,544人（内：正職員1,600人） 8年間で506人減少
- ・部門別損益 令和6年度末
  - 経常利益 合計 606百万円
  - 農業関連事業▲1,356百万円
  - 営農指導事業▲1,471百万円

# 現状

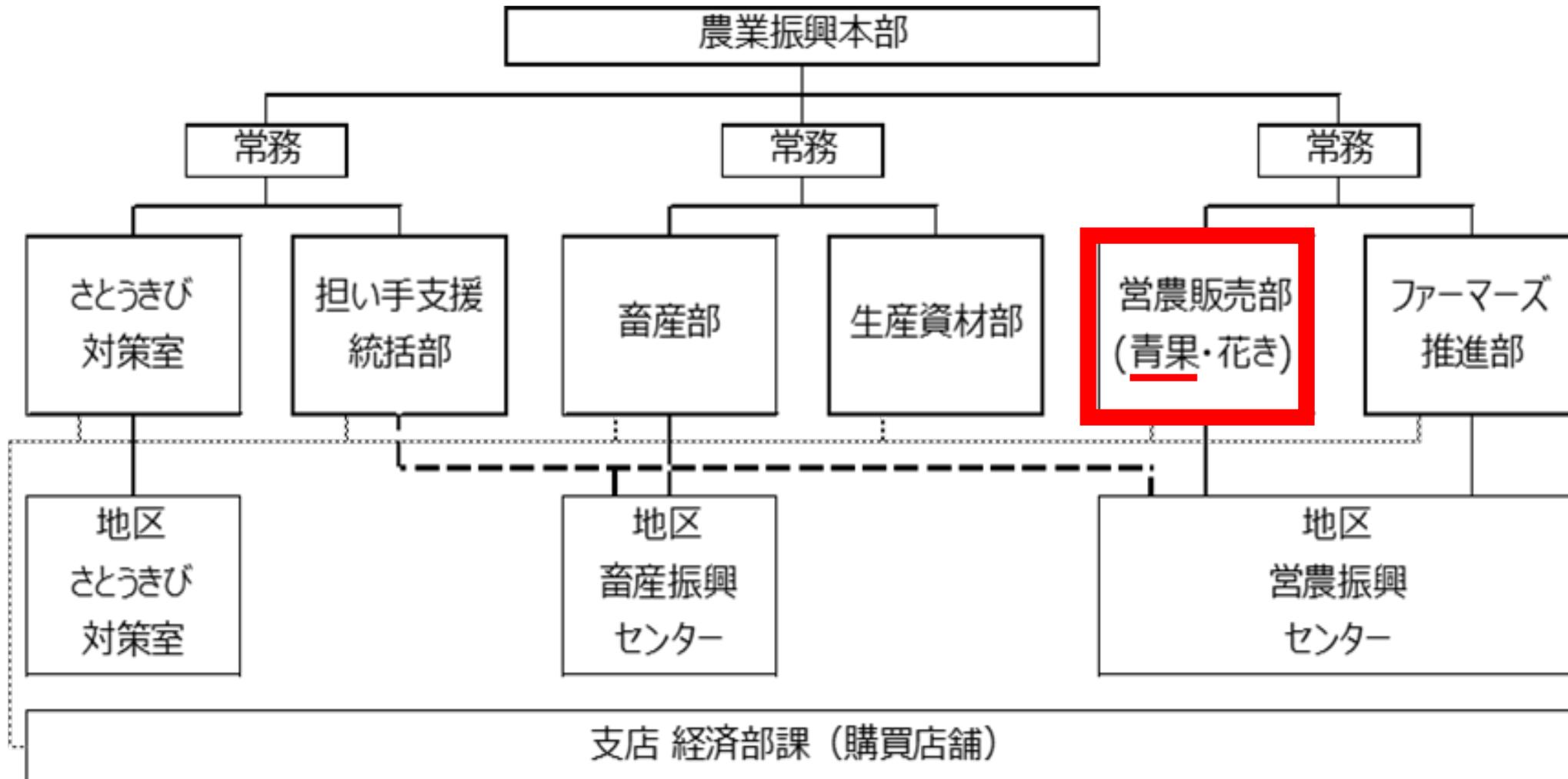
# JAおきなわ 機構図



(出典：当JAディスクロージャー2025,p111より転載 筆者加工)

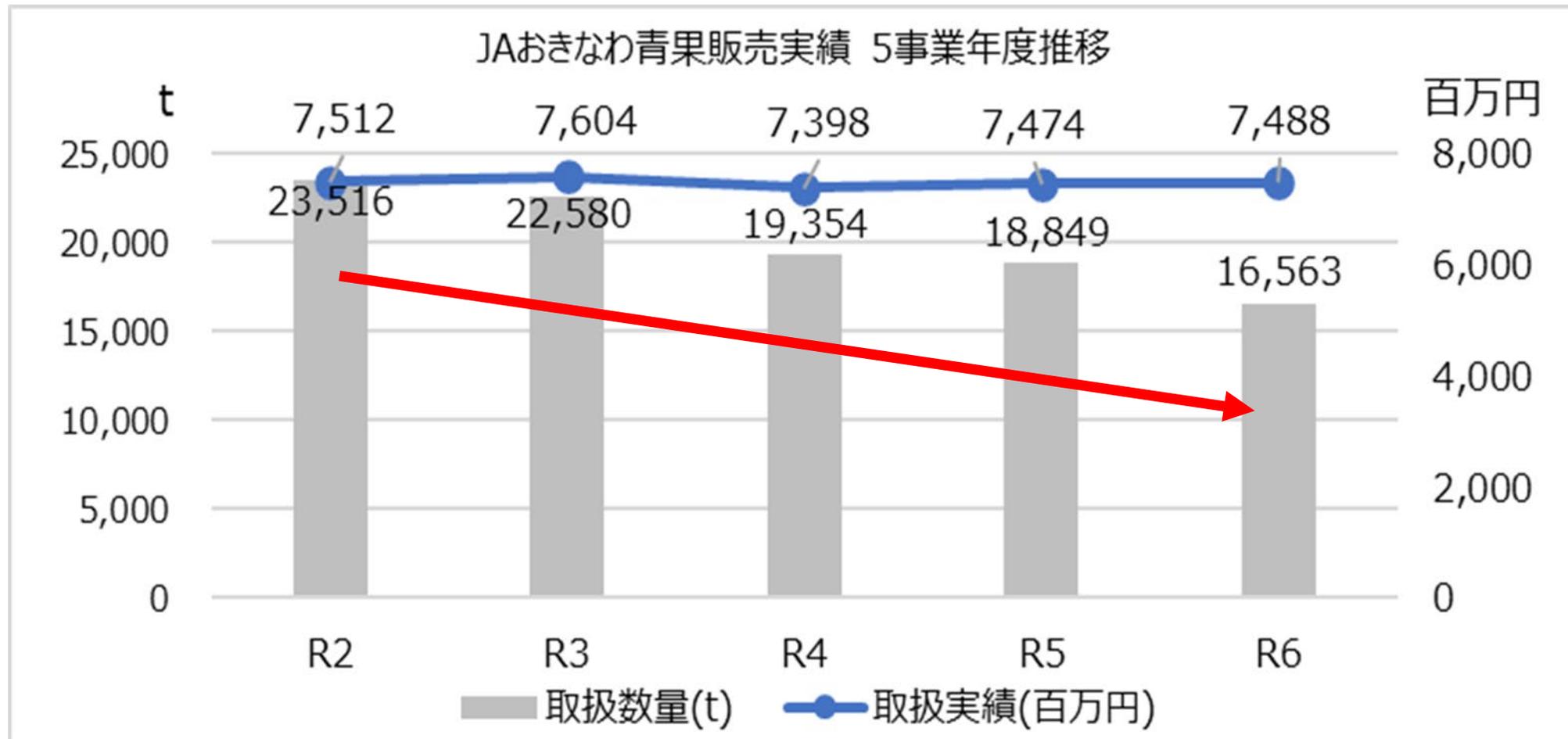
# 現状

## JAおきなわ 農業振興本部



# 現状 JAおきなわ 青果販売実績

金額横ばい 数量6,953 t 減少



(出所：当JA 総代会資料 令和2年度から令和6年度より筆者作成)

# 現状 JAおきなわ 青果生産概況

## 天候不順等により安定生産に悪影響

### 【令和6年度】

- ・長雨等の影響による圃場準備や作付け遅れ、また北部豪雨被害、年明け以降の低温によりインゲン・ゴーヤーの取扱量が減少しました。
- ・寒暖差による樹勢低下、梅雨時期の長雨や北部豪雨被害、年明け以降の低温による影響で取扱量が全体的に減少しました。

### 【令和5年度】

- ・夏期品目のオクラは8月に襲来した台風6号の影響、また、冬春期の品目は生育期の寒暖差の影響による樹勢低下がみられ取扱数量が計画を大きく下回りました。

### 【令和4年度】

- ・夏期品目のオクラは梅雨時期からの降雨の影響、また、冬春期の露地品目の植え付け時期の長雨による植え付け作業の遅れ、冬春期品目の生育期の曇天等により数量が大きく下回りました。

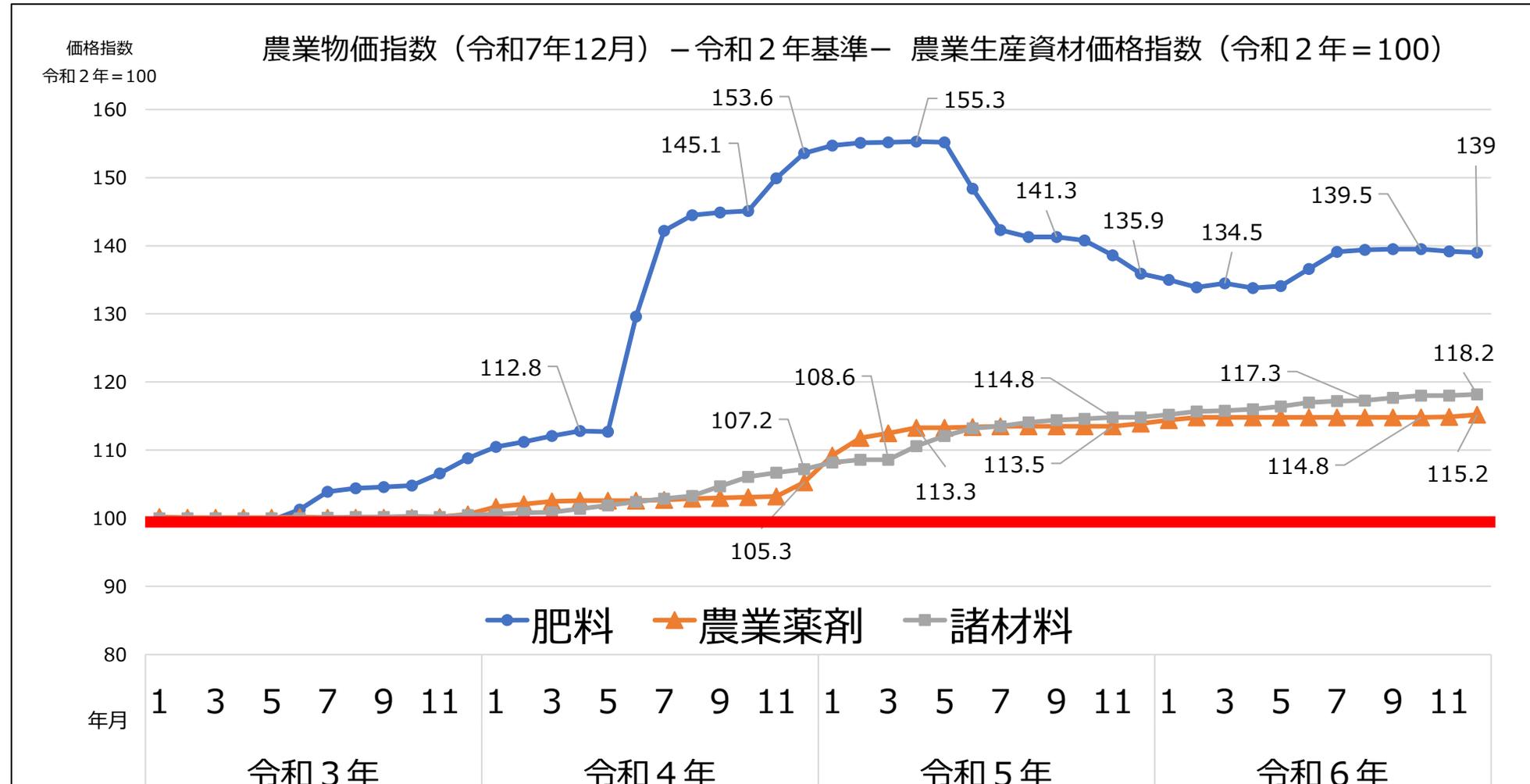
### 【令和3年度】

- ・サヤインゲン、かぼちゃ、とうがん等の冬春期品目の生育期の低温や日照不足等により取扱いが減少しました。

## 現状

## 農業生産コストの状況

## 農業生産コストの上昇



(出典：農林水産省 HP,統計情報,農業物価統計調査[令和2年基準]より筆者作成)

# 課題

## 青果物の課題の整理

---

安定生産の難しさ、農業生産コストの上昇により

生産者所得が減少しているのではないかという懸念

JAの強みであるスケールメリットを最大限に活かし

販売価格の維持・向上と農業生産コストの低減を図るためにも

いかに「安定生産」を確立させ

「安定集荷」を実現させるかが課題

# 課題解決へ「安定生産」と「安定集荷」を実現するために何が必要か

## ① 営農指導員の「営農技術指導」で

**安定生産**を確立していくことが必要

- ・ 高度な営農技術指導
- ・ 想定できる天候・病害虫には確実に対応する技術  
温暖化、低温・高温、少雨・多雨、日照不足  
不確実性を確実なものへ近づける

# 課題解決へ「安定生産」と「安定集荷」を実現するために何が必要か

## ② 営農指導員が 「産地をつくり」

**安定集荷**を確立していくことが必要

- ・ 集荷数量を確実に確保すること
- ・ 販売価格の維持・向上につなげる
- ・ 生産・販売コストの低減につなげる

# 課題解決へ JAおきなわとして取り組むことは何か？

- ① 営農指導員の「営農技術指導」で安定生産を確立していくことが必要
- ② 営農指導員が「産地をつくり」安定集荷を確立していくことが必要

① 「人づくり」 = 「① 営農技術指導と② 産地づくりのプロ」を育成すること

「高度な営農技術」と「産地づくり技術」 = 「技術産地プロ」

② 「体制づくり」 = 「持続可能な営農指導事業体制」を構築すること

# 提案 1

## 人づくり

「営農技術指導と産地づくりのプロ」の育成

# 「営農技術指導と産地づくりのプロ」の育成

## 技術産地プロの配置

# 広域品目プロフェッショナル

インゲンプロ



ゴーヤープロ



オクラプロ



カボチャプロ



マンゴープロ



# 「営農技術指導と産地づくりのプロ」の育成

## 技術産地プロの人材像

営農技術指導のプロ

高度な栽培技術指導で課題解決ができる人材

産地づくりのプロ

JAに出荷するメリット、まとまる意義を伝え、産地をまとめる技術を持った人材

他部門との連携

他部門の専門者と連携できる人材

# 「営農技術指導と産地づくりのプロ」の育成

## 技術産地プロ業務 その1

経営状況  
把握  
見える化

産地拡大戦略  
年間行動計画

実行

# 「営農技術指導と産地づくりのプロ」の育成

## 技術産地プロ業務 その1 補足

## 経営状況 見える化シート

経営状況 見える化シート		
項目	実態	
品目	カボチャ	【今期の課題】 (生産面)
地区	北部地区	
部会名	〇〇支店カボチャ部会	
対象シーズン	令和6年12月～令和7年4月	(販売面)
出荷者数	〇名	(コスト面)
作付面積	〇ha	
反収	〇t	
出荷数量	〇t	【次期 産地拡大戦略】
販売金額	〇円	<p><b><u>課題を把握し共有する</u></b></p> <p><b><u>産地拡大戦略へつなげる</u></b></p>
等級比率	AO%、BO%	
階級比率	LO%、MO%	
販売コスト	〇円	
生産コスト	〇円	
手取り額	〇円	

(出典：筆者作成)

# 「営農技術指導と産地づくりのプロ」の育成

---

## 技術産地プロ業務 その2

# 営農技術のアップデート

### 〈栽培マニュアルの更新〉

- ・ 県との連携 方向性・目標・目的共有 業務分担
- ・ 先進地視察研修 温暖化 アジア方面の視察研修
- ・ 実験圃場 イレギュラーに対応すべく実証
- ・ 情報収集 農薬更新 最新情報を取りに行く姿勢

# 「営農技術指導と産地づくりのプロ」の育成

---

## 技術産地プロ業務 その3

# 産地づくり技術のアップデート

- ・ JAへ出荷するメリット内容 情報更新
  - 販売価格の維持・向上へつなげる情報更新
  - 生産・販売コスト低減につなげる情報更新
- ・ 協同組合活動の意義を伝える

# 「営農技術指導と産地づくりのプロ」の育成

## 過去に活躍したプロ

### ～技術産地プロのモデル～

- ・カボチャの専任部長
- ・「緑のダイヤモンド」
- ・丁寧な「高度営農技術指導」
- ・部会がまとまる「世界一の産地に！」
- ・業務が丁寧でとても **シンプル**！

**産地が拡大**



# 「営農技術指導と産地づくりのプロ」の育成

## 技術産地プロ位置づけ

### 「専任職」として位置づける

等級	管理職	専門職	専任職
10	管理職		
9	管理職	(専門職) 高度専門業務	(専任職) 高度専任業務
8	管理職	(専門職) 上級専門業務	(専任職) 上級専任業務
7	管理職	(専門職) 中級専門業務	(専任職) 中級専任業務
6	管理職	(専門職) 初級専門業務	(専任職) 初級専任業務
1~5	総合職	(一般職)	(技能職)

技術産地プロ

# 「営農技術指導と産地づくりのプロ」の育成

技術産地プロ位置づけ

## 専任職に「選抜制」を導入

### 【選抜条件】

- ① 1品目以上の基礎的な営農技術を指導できる
- ② 部会をまとめ、講習会等を企画・実施できる
- ③ 生産過程で異常が発生した場合、解決できる
- ④ 探求心があり技術研究が得意である

# 「営農技術指導と産地づくりのプロ」の育成

技術産地プロ位置づけ

## 専任職での「昇格基準」KPI設定（筆者案）

等級	定義	昇格基準（筆者案）
9	(専任職) 高度専任業務	【KPI】 1品目以上/ <b>4部会以上</b> ①反収が増加した ②出荷数量が増加した ③面積が拡大した ④部会員が増加した ※①②③は絶対条件とする
8	(専任職) 上級専任業務	【KPI】 1品目以上/ <b>3部会以上</b> ①反収が増加した ②出荷数量が増加した ③面積が拡大した ④部会員が増加した ※①②③は絶対条件とする
7	(専任職) 中級専任業務	【KPI】 1品目以上/ <b>2部会以上</b> ①反収が増加した ②出荷数量が増加した ③面積が拡大した ④部会員が増加した ※①②は絶対条件とする
6	(専任職) 初級専任業務	【KPI】 1品目以上/ <b>1部会以上</b> ①反収が増加した ②出荷数量が増加した ③面積が拡大した ④部会員が増加した ※①②は絶対条件とする

# 「営農技術指導と産地づくりのプロ」の育成

## 技術産地プロ位置づけ

### 専任職－技術産地プロ－の地位向上

等級	地位向上（提案）		名称（提案）	略称（提案）
	専任職（現）	専任職（提案）	技術産地プロ	
10		（専任職） 最高度専任業務	最高度技術産地プロ	STC
9	（専任職） 高度専任業務	（専任職） 高度専任業務	高度技術産地プロ	
8	（専任職） 上級専任業務	（専任職） 上級専任業務	上級技術産地プロ	
7	（専任職） 中級専任業務	（専任職） 中級専任業務	技術産地プロ	TC
6	（専任職） 初級専任業務	（専任職） 初級専任業務	技術産地プロ	

# 「営農技術指導と産地づくりのプロ」の育成

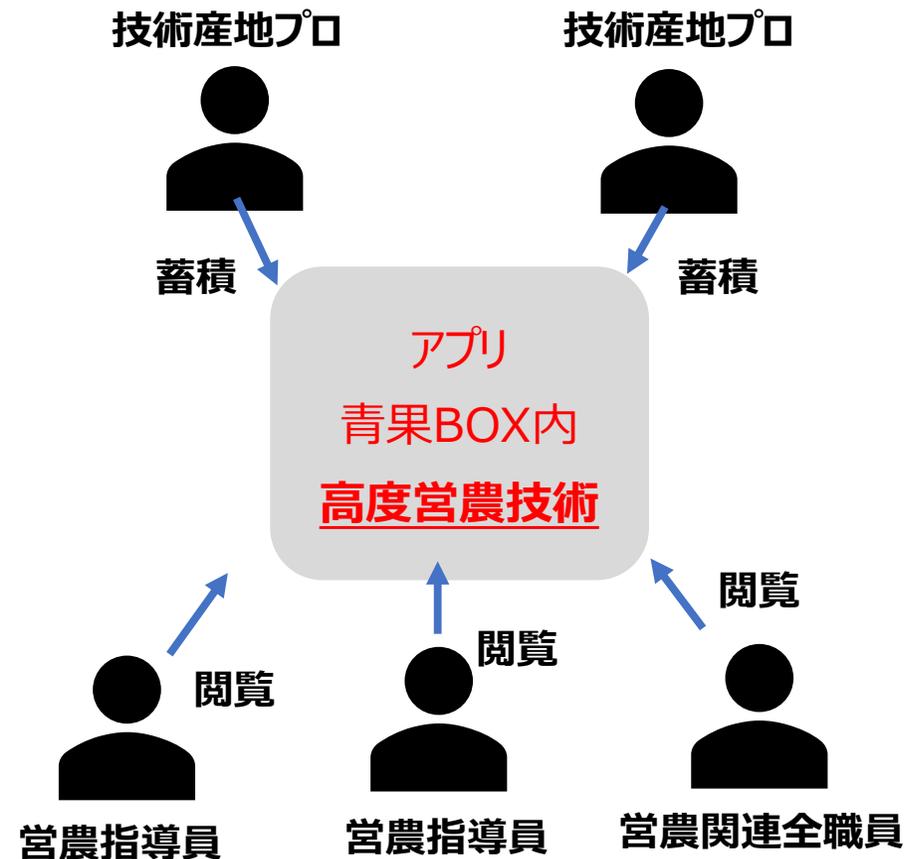
## 技術産地プロの設置のメリットとデメリット

メリット	<ul style="list-style-type: none"><li>・ <b>継続的</b>に高度な営農技術の<b>蓄積が可能</b></li><li>・ 高度な営農技術の<b>更新が可能</b></li><li>・ JA最大の強みとなる「<b>情報的資源</b>」である</li></ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"><li>・ <b>属人化</b></li></ul>

# 「営農技術指導と産地づくりのプロ」の育成

## 属人化への対応策

### アプリを活用した高度な営農技術の蓄積と共有



(出典：筆者作成)

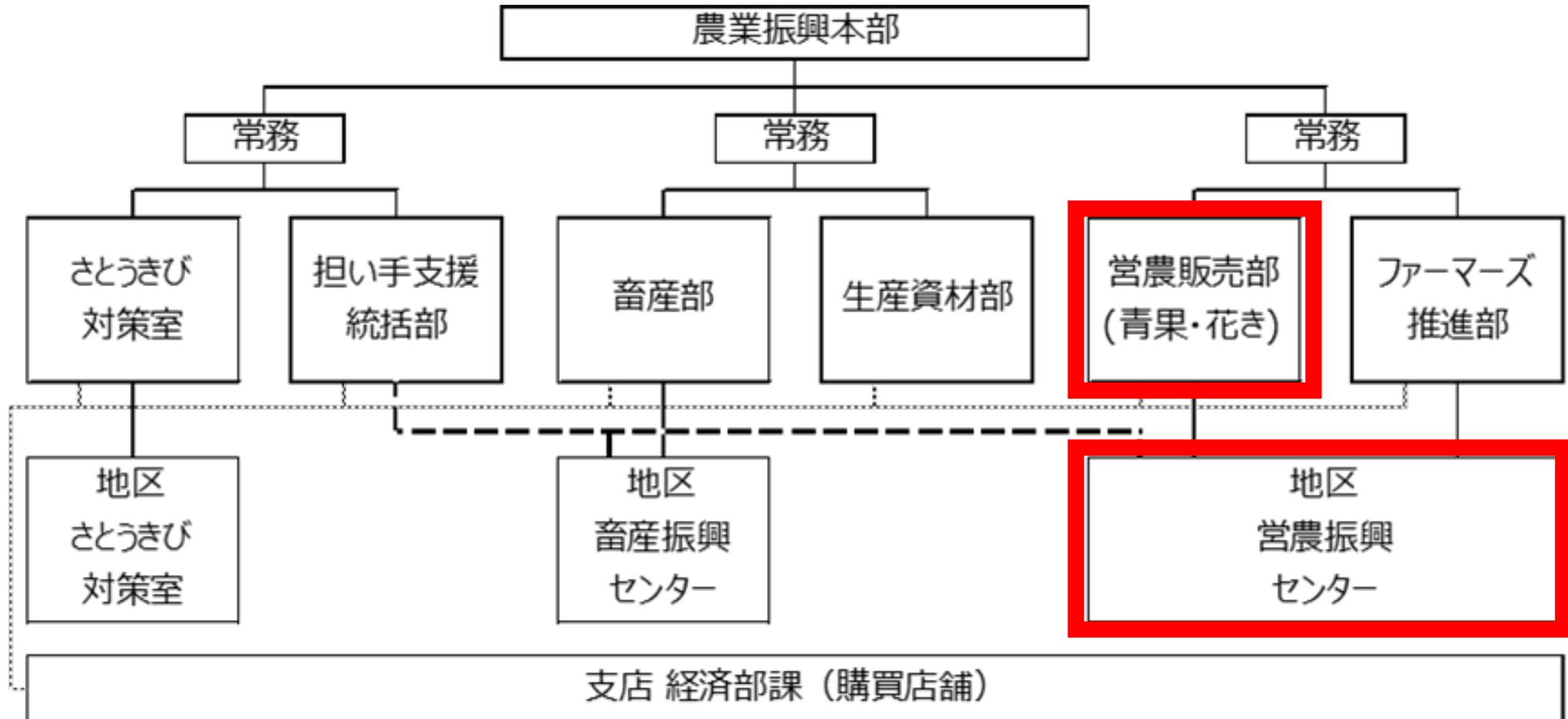
# 提案 2

## 体制づくり

「持続可能な営農指導事業体制」の構築

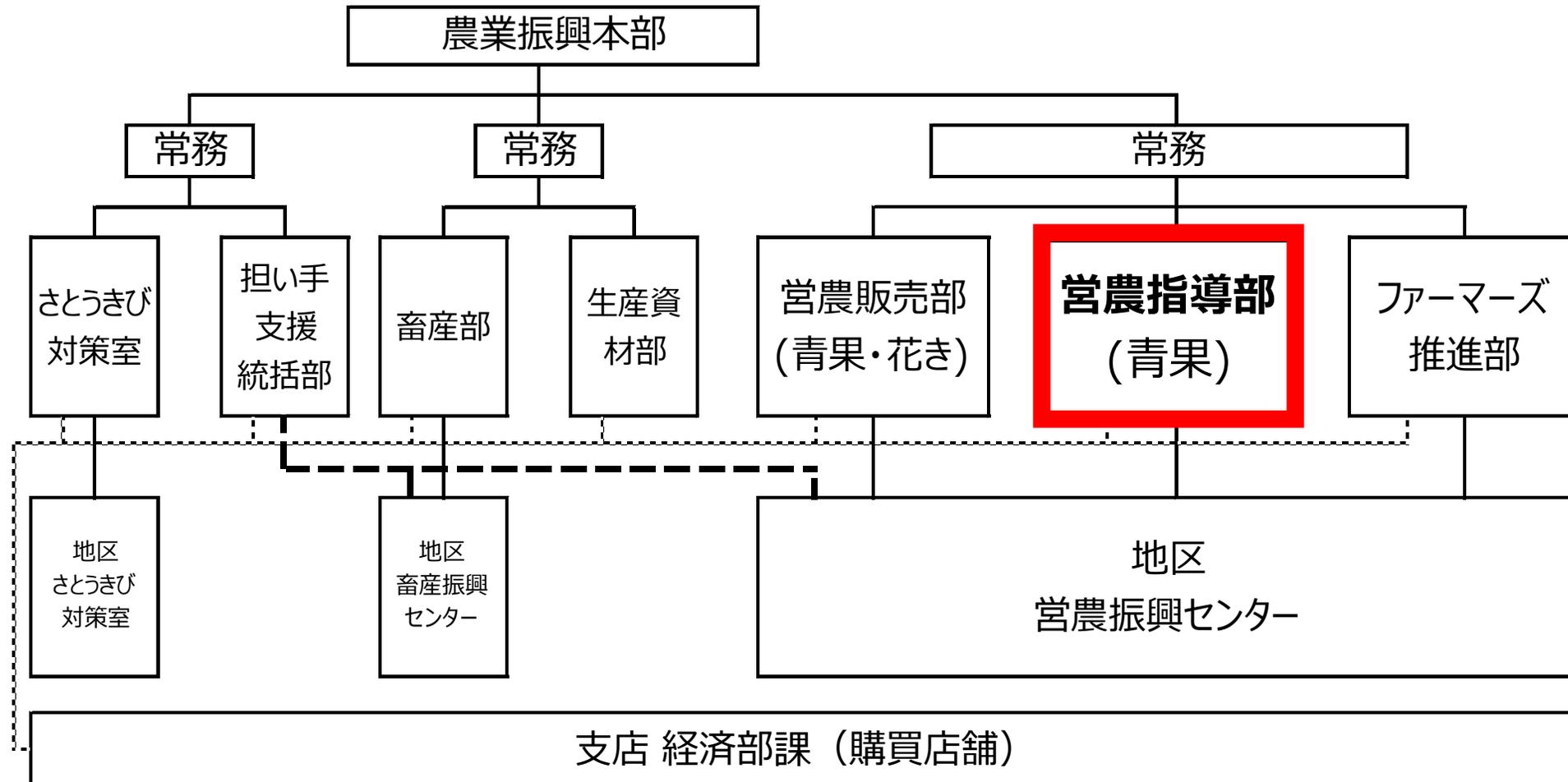
# 「持続可能な営農指導事業体制」の構築

## 現在の農業振興本部の機構図



# 「持続可能な営農指導事業体制」の構築

## 営農指導部の新設



# 「持続可能な営農指導事業体制」の構築

## 営農指導部の業務内容

- ・ 技術産地プロの管理  
目標・KPIの進捗管理
- ・ 青果営農指導事業の企画機能発揮  
産地の向かうべき方向性
- ・ 営農業務DX推進  
営農DX担当者配置
- ・ 営農指導に関する業務の集約機能  
組織会計、調査業務、庶務
- ・ 営農指導事業の収支管理  
収支改善の意識を高める

# 「持続可能な営農指導事業体制」の構築

## 営農指導事業のバックアップ体制と連携



生産者

### 営農指導部

営農指導事業：営農指導員・技術産地プロ

販売部門	購買部門	農業経営部門
<ul style="list-style-type: none"> <li>・販売面</li> <li>・輸送面</li> <li>・共同選別面</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肥料</li> <li>・農薬</li> <li>・生産・販売資材</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営アドバイス</li> <li>・各種補助・助成事業案内</li> <li>・青色申告等支援</li> <li>・農業関連融資</li> <li>・労働力提供等</li> <li>・信用、共済、生活事業連携</li> </ul>

# 提案のまとめ 産地拡大へ

## 産地をつくる仕組みをつくる

人

- 「技術産地プロ」をつくる

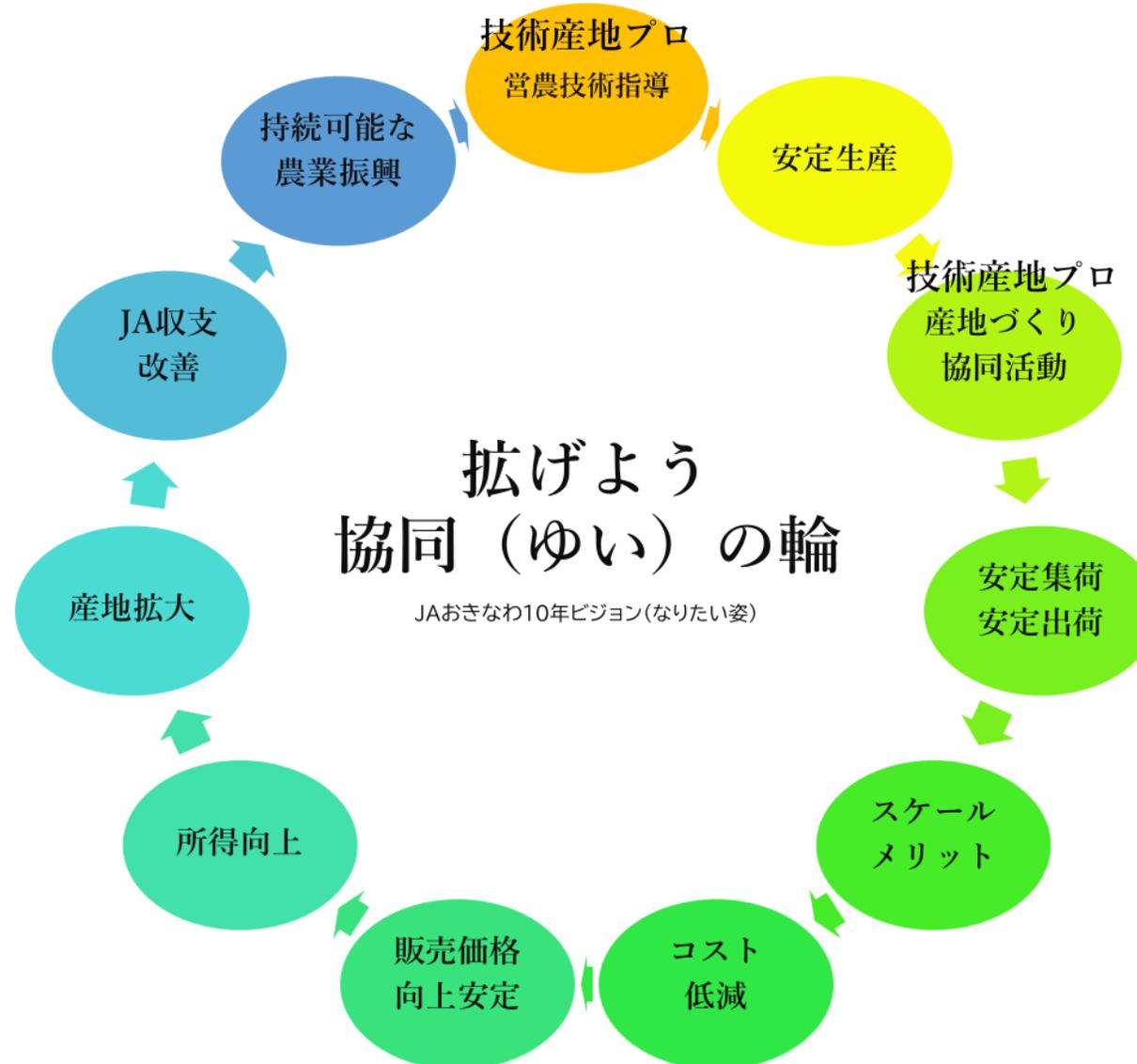
体制

- 「営農指導部」をつくる

連携

- 営農指導部を支援、各部署が連携する

# 提案のまとめ 好循環へ



# 産地をつくる仕組みをつくる

～技術産地プロが拓く 沖縄農業の未来～



ご清聴  
ありがとう  
ございました